



文教大学

人間科学部 臨床心理学科／心理学科

岡田 斉 (おかだ ひとし)

所在地：越谷市南荻島 3337

<http://www.bunkyo-human.jp/html/human.html>

Profile—おかだ ひとし

文教大学人間科学部臨床心理学科教授。専門は知覚心理学、認知心理学。著書は『夢』の認知心理学(勁草書房)、『心理学理論と心理的支援』(編著、弘文堂)、『イメージの世界：イメージ研究の最前線』(分担執筆、ナカニシヤ出版)など。



文教大学越谷キャンパス

文教大学は7学部からなる学生数約8,000人の中堅規模の大学です。教育学部、人間科学部、文学部が埼玉県越谷市にある越谷キャンパスに、情報学部、国際学部、健康栄養学部、経営学部が神奈川県茅ヶ崎市にある湘南キャンパスに設置されています。人間科学部に人間科学科、臨床心理学科、心理学科の三つの学科があります。越谷キャンパスは東京のほぼ真北、都心から約25キロに位置し、最寄り駅は東武スカイツリーラインの北越谷です。駅前から大学に向かって歩くと閑静な住宅地となり、それを抜けると一転長閑な元荒川の流れが目に入ります。春は土手沿いにある桜並木が、河原には菜の花が一面に咲き誇り、その向こうには富士山の雄姿が遠望できる越谷の名所になっています。駅から川に面したキャンパスまでは徒歩10分ほどです。キャンパスの密度は高く、教育や心理を目指す学生が多いこともあり、人に優しく温かい雰囲気があり賑わっています。越谷市というと、日本最大のショッピングモールがあることが有名な程度で全国的には印象が薄いかもかもしれません。しかし、始発駅である北越谷駅から東京や渋谷などの都心まで地下鉄直通、概ね1時間程度で出かけることができるように便利な割には家賃などの生活費が安く、思いのほか住みよい場所です。学生たちは

その便利さから卒業しても大学近辺から離れないものも多いと聞いております。

日本最大級の心理学系学科を持つ人間科学部

人間科学部では、臨床心理学科、心理学科あわせて、1,200人近くが心理学を専門として学んでいます。さらに大学院人間科学研究科臨床心理学専攻修士・博士課程、人間科学専攻修士課程があり、心理学を専攻する大学院生が50人以上在籍しています。心理学を専門とする専任教員は基礎から応用までバランスよく配置されており、学部全体で30人以上います。心理学系学科を有する学部としては現時点では国内最大級の規模になると思われます。

人間科学部における心理学教育の歴史

人間科学部には1998年に東日本では初めて臨床心理学科が、2008年には心理学科が設置されたように、それほど歴史があるとはいえません。しかし、エビングハウスの有名な言葉「心理学の過去は長いが、歴史は浅い。」と同様のことが私たちの学部にもあてはまります。1966年に文教大学の前身である立正女子大学家政学部が設立され、臨床心理学を中心としたカウンセリングコースとその実践の場として臨床相談研究所が設立されています。1976年、家政学部が日本で2校目となる人間科学部に改組され、心理学領域は

心理学専修として位置づけました。1993年に大学院人間科学研究科臨床心理学専攻設置、1996年には最初の臨床心理士養成指定大学院(一種)の10校の一つになりました。2000年には日本で初となる臨床心理学専攻博士後期課程も設置されました。文教大学人間科学部は臨床心理学教育の領域において50年の歳月を重ねてきた「過去」があるのです。

充実した施設設備

人間科学部はキャンパスで最新の5階建ての校舎に集約されています。1階は階段教室等の教室、2階には演習室と実習室、3階から5階には研究室と実験室があります。学部専用の実験室として、生理心理学実験用のシールドルームを備えた実験室が3つ、ハーフミラーを設置した行動観察室、視覚実験用の暗室、箱庭実習室などの専門的な実験室に加え、汎用の実験室も合わせて、学部で38もの専用の実験、実習室を有しています。中でもビジネス心理学実習用に作られた模擬店舗は他にはあまり類例がないと思います。越谷キャンパスの図書館も特筆できます。この50年間に国内で発刊された心理学の本はほぼ網羅され、しかも全て学生が手にとって見ることができる開架スペースにあります。このため、心理学系の学生の利用率が特に高く、図書館全体の利用率を国内トップランクに引き上げていると聞いております。

臨床心理学科の特徴

人間科学部の歴史の中で忘れてはならない先生が二人おられます。一人は人間科学部創設期に学部長、学長を務められた水島恵一先生です（2015年に逝去）。先生は犯罪・非行の心理学、カウンセリング、イメージを中心とした人間性心理学では日本を代表する臨床心理学者でした。現在の臨床心理士制度、心理臨床学会、人間性心理学会の設立には中核になってご尽力されたと聞いております。もう一人は岡堂哲雄先生です。先生は家族心理学会の会長を長年務められるだけでなく、心理査定などを中心に100冊以上の臨床心理学の専門書を編集・執筆された日本を代表する臨床心理学の大家の一人です。臨床心理学科はこういった先達の活躍の結果、犯罪・非行の心理学、家族心理学、カウンセリングの分野に強い特色を持っています。

臨床心理学科のカリキュラムの特徴に、心理学の基礎教育に根差した実践指向があります。それを端的に示す科目に「臨床心理実習」があります。少人数のゼミ形式で学内実習を行ったうえで、医療、教育、福祉、企業等の現場で心理学に関する学外実習を行う科目で、人間科学部創設以来続いています。学内実習の授業としてカウンセリングや心理検査に少人数で実践的に取り組む「臨床心理面接検査法」と心理学の基礎的な実験を習得する「心理学実験」を必修とし基礎と臨床のバランスにも配慮しています。講義科目では臨床心理学の主要領域をカバーすることはもちろんですが、心理学科・人間科学科との他学科聴講を広く認めることで、認知、行動、社会、発達心理学などの主要領域を自由に選択できるようになっています。

心理学科の特徴

人間科学部に設置された心理学専修では、心理学の基礎から応用までまんべんなく科目が配置され、心理学科と呼んでよい構成になっていました。学生の進路は初期には臨床心理学指向が強かったのですが、一般企業への就職に広がっていったため、それに対応すべく産業心理学領域も充実させていきました。臨床心理学領域を臨床心理学科として独立した後も、基礎心理学、産業心理学、それに加えて健康心理学の領域が、人間科学科内に心理学コースとして存続していましたが、10年後に改組して心理学科とした経緯があります。このため、心理学科には、基礎を中心とした心理学、産業心理学をアレンジしたビジネス心理学、健康心理学の3つのコースが設置されました。心理学科でも基礎と応用を重視する伝統に従って「心理学研究法」、「心理統計法」、「心理学基礎実験」、「カウンセリング」を必修とし、学外実習や実験を配置するカリキュラムが構成されています。

卒業後の進路について

臨床心理学科では、2014年度には卒業生のうち22パーセントが臨床心理士指定大学院に進学しました。さらに大学院臨床心理学専攻の臨床心理士合格率は毎年ほぼ100パーセント、大学院修了後の就職率はスクールカウンセラーや医療関係、公務員などで毎年ほぼ100パーセントとなっています。文教大学といえば教育学部が有名ですが、人間科学部でも卒業生の1割程度が教員になっています。中学高校の社会科教員免許が取得できるとともに、小学校教諭、特別支援学校教諭免許も教育学部との連携により取得でき、教員採用試験の合格率は私立大学では全国

1位の教育学部とほぼ同じです。卒業生の1割程度は公務員になります。県や政令指定都市の心理・福祉の専門職、一般職、市町村の一般職などに加え、心理学を生かした司法領域である、家庭裁判所調査官、法務教官、保護観察官、警察官などに合格しています。これらの実績の源には、人間科学部が設置された40年前から大学院、公務員、教員志望の学生が集まる自主勉強会を学生が主体的に運営する「文化」が根付いている点があります。その文化は大学院にまで及び、大学院臨床心理学専攻の臨床心理士試験の合格率を高めているようです。最も多い進路は一般企業ですが、その内容は金融・保険、卸・小売り、医療・福祉、サービス等多岐に渡っていますが、共通のキーワードがあります。それは「人の役に立ちたい。人を幸せにする仕事に就きたい」ということです。学部ではビジネス心理学コースが中心となってキャリア教育を生かした「スペシャル就活ゼミ」を開き、きめ細かい心理的な対応をすることで就職に実績を上げています。

おわりに

文教大学の建学の理念は「人間愛」ですが、人にやさしく、人の役に立ちたいと願う心理学を専攻する学生たちはそれを体現しているように思えます。現在、2015年に法案が成立した公認心理師法にも対処すべく更なる発展を計画しているところです。



3, 4年生、院生のゼミ合宿にて